

第6節 学習上の悩み

【中学生の学習上の悩みは、「どうしても好きになれない科目がある」(67.9%)、「上手な勉強の仕方がわからない」(66.6%)、「覚えなければいけないことが多すぎる」(57.4%)、「こつこつと努力できないで困る」(54.2%)の4つが半数を超えている。1つには、努力主義などの社会的・心理的なプレッシャーの反映であると考えられる。】(図2-11、図2-12)

Q11

あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。そう思うことがあるものにいくつでも○をつけてください。

さて、今の中学生は、どのような勉強の悩みを抱えているのだろうか。ここでは、14の項目を設定し、複数回答方式で答えてもらった。

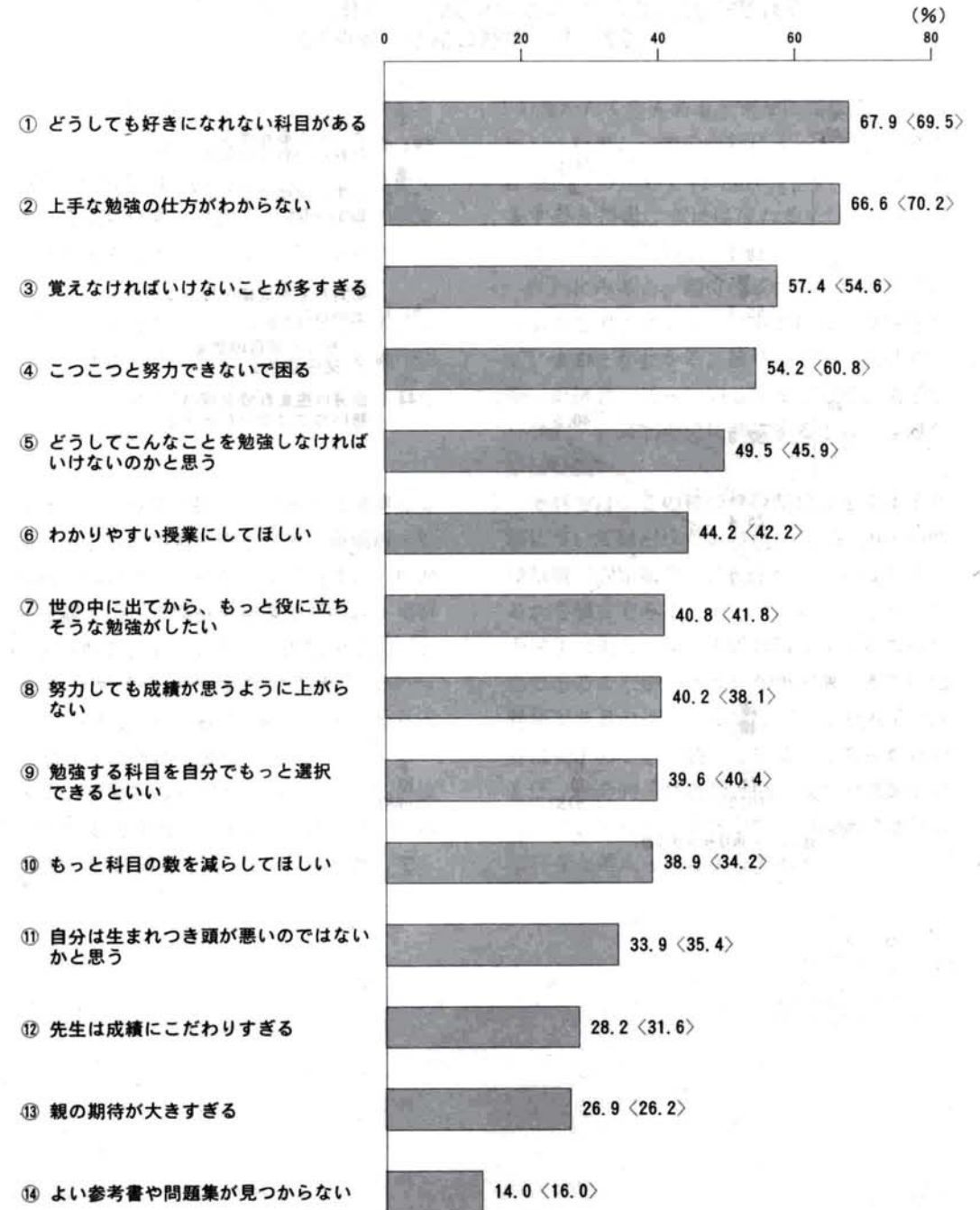
もっとも多かった悩みは、「どうしても好きになれない科目がある」(67.9%)で、わずかの差で「上手な勉強の仕方がわからない」(66.6%)が続く。以下、「覚えなければいけないことが多すぎる」(57.4%)、「こつこつと努力できないで困る」(54.2%)といったところが主な悩みである。これらの悩

みの1つは、「好きになれない科目があってはならない」とか、「こつこつと努力しなければならない」という中学生が抱えている「幻想」や「信仰」の裏返しである。いわば社会的・心理的なプレッシャーの反映として、これらの悩みが現れている。たしかに、「どうしてもこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」(49.5%)とか「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」(40.8%)といった形で、今の勉強の内容について疑問を抱く中学生も少なくない。しかし、多くの中学生は、努力主義を信仰して効率的な勉強方法を求めているようである。

前回と比べて、悩みの状況に大きな変化が生じている様子はみられず、上で述べたパターンはくり返されている。

成績の自己評価別には、概して成績下位者のほうが悩みの頻度は多く、特に彼らは「どうしても好きになれない科目がある」(74.9%)、「上手な勉強の仕方がわからない」(73.5%)、「努力しても成績が思うように上がらない」(51.1%)、「もっと科目の数を減らしてほしい」(48.5%)、「自分は生まれつき頭が悪いのではないかと思う」(44.1%)という悩みを抱く傾向が比較的強かった。

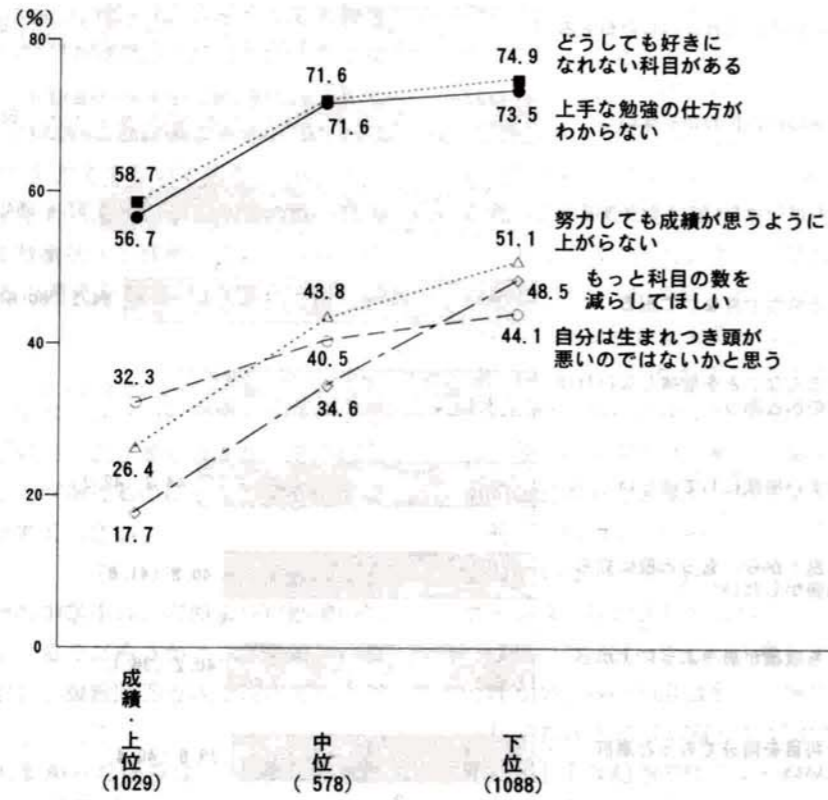
図2-11 勉強についての悩み



注1) < > 内の数値は第1回の結果。

注2) サンプル数は2755人。

図2-12 勉強の悩み(成績別)



注) () 内はサンプル数。